



プロフィール

常盤和明(ときわ・かずあき)

1983年(昭和58年)千葉工業大学工学部卒、同年理研ビニル工業(現リケンテクノス)入社。
2007年米国リケンエラストマーズコーポレーション社長、2011年コンパウンド事業部副事業
部長兼コンパウンド営業部長、2013年6月取締役経営企画室長。2016年4月1日代表取締役
社長執行役員に就任。神奈川県出身、59歳。

感染症との闘い

2020年は、半世紀ぶりに東京で開催されるオリンピックを皆で輝かしく迎えるという期待をよそに、私たちが待ち受けていたのは新型コロナウイルスとの闘いでありました。この場を借りて、新型コロナウイルスによりお亡くなりになられた方々に心よりお悔やみ申し上げますと共に、療養中の方々の一日も早い回復を願っております。そして、リスクに立ち向かいながら日々奮闘されている医療従事者の方々、関係者の方々へ深謝申し上げます。

危機下における本質的な価値の提供

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、リケンテクノスグループでも働き方が大きく変わりました。当社グループのみならず、世界中で今まで当たり前で過ごしていた日常が一変し、最初は不安や戸惑いを感じることも多かったと思います。しかしながら、長期化する新型コロナウイルスとの闘いは、私たちが今まで疑わなかった当たり前のことを強制的に見直し、本当に必要なものは何であるのかを考えるきっかけを与え、そして、今も問い続けているのではないのでしょうか。リケンテクノスグループの3か年中期経営計画の経営方針である「More Value to All 2021 共に生み出せ! さらなる価値を!」の実現が、より一層社会から求められており、このことを社員一同今こそ深く胸に刻み、日々業務にあたってまいります。社員一人ひとりが本質的な価値を改めて見つめ直し、それを皆様へきちんと提供してまいります。

Blue Challenge サステナブルな社会への貢献

このコロナ禍において、当社グループの掲げる主要課題「サステナブルな社会への貢献」は益々重要性を増し、同時に今までの常識だけにとらわれない新たな挑戦をはじめていくことが求められております。2020年4月からは、これらの取り組み全般を「Blue Challenge」と呼称し、強化してまいりました。従い、本報告書も「Blue Challenge(プ

ルーチャレンジ)レポート」として発刊いたしました。具体的な取り組みとして、SDGsを意識しながら化学メーカーとしての責任を果たすため、まずは環境面において当社グループの生産する高機能プラスチックについて、廃棄・リサイクルも視野に入れた製品開発や燃費向上などの環境負荷低減のための製品開発などを積極的に行ってまいります。また、社会が変化する中でも、すべての生活空間に快適さを提供できる製品の開発を行ってまいります。今回の特集では、感染症対策製品「リケガード」についてご紹介しています。「リケガード」が、皆さまの生活空間で少しでもお役に立てることを願っております。

すべてのステークホルダーの 皆様と共に

新型コロナウイルスの感染だけではなく、自然災害による被害も毎年絶えることがありません。これらの困難を乗り越え、将来にわたり実りある豊かな社会を持続させるためには、お客様、お取引先様、株主様、従業員、地域の皆様などすべてのステークホルダーの皆様とのパートナーシップによる取り組みが欠かせません。ステークホルダーの皆様と共に歩んできたことで、お互いの信頼関係を築き上げ、リケンテクノスグループは今日まで存続し、様々なプラスチック製品をご提供し続けることができました。そして、これからもステークホルダーの皆様と、より強固なパートナーシップを築き、サステナブルな社会へ貢献してまいります。

私たちは、すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指し、これからもステークホルダーの皆様と共に歩んでまいります。今後ともさらなるご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

リケンテクノス株式会社
代表取締役 社長執行役員

常盤 和明